



健康福祉部長の答弁

「保険者努力支援制度」は今年度から実施、各自治体における保健事業等の取り組みを評価し、全国で約500億円の交付金を配分するものです。

今後も健康寿命の更なる延伸に向けて、各市町村の地域の実情に応じた健康づくりの取り組みをしっかりと応援していきます。

健康福祉部長

4 体験学習の推進について (1)AED教育の推進

楠本千秋質問

「AED教育の推進」についてお尋ねします。

平成28年の心肺機能停止者数は123,554人です。目撃された心肺機能停止者数は25,569人で、その内心肺蘇生を実施した人は14,354人で、社会復帰者数は1,681人(11.7%)とあります。



教育長

教育長の答弁

全ての中・高等学校の保健体育の授業に、AEDを含む心肺蘇生法の実習を新たに取り入れ、より実践的な授業が行われるよう取り組んでいきます。

写真で見える活動 2018/10~11

10月



警視庁訪問 (東京霞が関 /10.18)

11月



御所浦説明会(11.18)



楠本ちあき県政報告会 (11.17)

オアシス富岡」登録



みなとオアシス富岡登録認証式 (苓北町 /10.27)



幹線道路島民決起大会(市民センター /10.27)



熊本県議会議員 楠本ちあき

〒863-0043 熊本県天草市亀場町亀川63-15 TEL(0969)23-2633 FAX(0969)23-2634



【ホームページ】 http://kusumotochiaki.com 【Eメールアドレス】 chiaki.kusumoto@a.acn-tv.ne.jp

県政を身近にする情報紙

第5号

楠本ちあき県議会だより



平成30年11月 熊本県議会定例会報告 会期：11月30日 ~12月19日【20日間】



蒲島県知事と

熊本地震から2年9ヶ月。復旧・復興の予算は累計 8,579 億円と、県を挙げスピード感を持って「復旧・復興の4か年戦略」に取り組んでおりますが、未だ多くの皆様が避難生活を送られており、一日も早い「すまいの再建支援」が最重要課題と考えます。

熊本県議会議員になり3年半。一貫したテーマは「天草の振興」「健康と教育」に関するものです。

皆様の情報をもとに、これまでに多くの人と会い、天草の声を「蒲島県政」に訴えて参りました。

これからも全力で、チーム天草(天草・苓北・上天草)として連携し、課題解決と天草の活性化に向け取り組んで参ります。

11月議会 4回目の質問を掲載した 県議会だより「第5号」をお届けします。

ご一読頂き、ご意見をぜひお聞かせください。



一般質問日の早朝 散歩の後 人気漫画「ONE PIECE(ワンピース)」の主人公ルフィ像といっしょに(県庁敷地内) ※散歩中の人に撮っていただきました。



1 天草地域の振興

(1) 御所浦の振興について、 蒲島知事にお尋ねします。



楠本千秋質問

11月18日、御所浦架橋事業休止について、熊本県田嶋副知事、天草市中村市長、御所浦まちづくり協議会森会長、地域住民の皆様約200名の参加で地元説明会が開催されました。

地元からは、橋が架からない事への不満や、これまでの計画

の不備、災害時の対策、子ども達の通学の現状、特に、前島から横浦島への第二架橋の重要性・命の橋・生活の橋・希望の橋であり、この橋を必要とする多くの意見・要望が交わされました。

御所浦の皆様の叫びは、今まで描いてきた希望や夢を消さないで、何とか繋いで、御所浦を一つの町、にして欲しいとの願いだと感じました。

一方で、県と天草市で対応されている、御所浦振興策へのお礼についても感謝が伝えられ「子ども達の船賃の無料化についても、部活遠征等にも広げてほしい」等の要望も出されていました。

架橋事業の休止の経緯を踏まえ、住民からも要望のあった御所浦地域の振興策について、今後どのように取り組んでいくのか、蒲島知事のお考えをお尋ねします。



蒲島知事の答弁

先月、地元説明会を開催し、島民から、架橋の実現を望む御意見をいただき、改めて心が痛む思いです。

架橋事業の更なる長期化に対する振興策として、島外への移動など様々な課題に対応して

いく必要があると思います。

具体的な振興策は、住民の意見を伺いながら、天草市と連携した上で、来年度から実施できるよう、検討を進めていきます。

(2) 幹線道路等の整備推進について

楠本千秋質問

県議として、これまで5回国土交通省に要望活動に出かけています。天城橋を含む三角大矢野道路の開通、大変喜ばしいことで、ご尽力いただいた関係各位・皆様に感謝申し上げます。

病気療養中の園田先生も開通式に駆けつけられ、天草はこれで終わりでない、これからが重要だと力強い挨拶を頂きました。

その、園田先生も11月11日にご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生のお力添えで、石井大臣への緊急要望活動が行われ、前向きな発言をいただいております。

お尋ねの1点目は、工事が進められている熊本天草幹線道路(本渡道路・宇土道路)の整備状況について。

2点目は、天草島内には、国道266号の望薩峠工区、国道389号の下田南工区その他、まだまだ通行にも支障をきたす箇所があります。また、道路が未改良で、通学路にもかかわらず、歩行者の安全性が確保されていない箇所が残っています。現在の整備状況について土木部長にお尋ねします。



土木部長の答弁

熊本天草幹線道路は、重要な路線で、用地取得に取り組み、面積ベースで約66%の進捗です。橋脚工事が本格化、来年度には、橋梁上部に着手する予定です。

宇土道路では、JR 三角線を渡る工事用進入路が予定されています。

国道389号、鬼海ヶ浦地区と小田床地区では橋脚工事に着手、来年度にはトンネル工事を予定しています。

通学路については「通学路交通安全プログラム」に基づき、7箇所重点的に安全対策を進めています。



国道389号のようす

(3) 一次産業推進の取り組み (水産業の振興、畜産業の振興)

楠本千秋質問

天草地域は、有明海、八代海、天草灘に囲まれ、海域特性を活かした養殖業は、近年200億円程度の生産額で推移し、県全体の水産業の生産額の6割を占めており、地域の基幹産業となっています。

しかしながら、近年の燃油・餌料等の高騰、魚価の低迷に加え、赤潮被害の発生など、漁業経営は厳しい状況にあります。



天草地域の活性化には、養殖業の振興が不可欠です。1点目、県では天草地域の「養殖業の振興」について、どのように取組んでおられるのか農林水産部長にお尋ねします。

2点目は、「畜産業・黒毛和牛の振興」についてお尋ねします。

TPP11が平成30年12月30日に発効し、また、日EUのEPAについても本年2月に発効するのではないかと報道があり、国内畜産の競争力強化が大きな課題であると思います。

特に和牛においては、優秀な種雄牛づくりと、繁殖雌牛集団の育成、改良による高品質化は不可欠と思われます。

改良の加速化や2021年の全共鹿児島大会に向けた取組みについて農林水産部長にお尋ねします。



農林水産部長の答弁

新たな養殖漁業の導入で経営の多角化を進めるため、新たな技術の開発によるヒトエグサ(アオサ)の生産の拡大や、マガキの生存率の向上及びコスト削減に取り組む。今後とも、養殖水産物の生産性を高め、天草地域の養殖漁業の振興に努めていきます。

畜産については、高能力種雄牛候補の生産に取り組んでいる。また、全共鹿児島大会に向け、早期肥育試験を実施中で、県としてもしっかり支援していきます。

2 自転車活用の推進 タンデム自転車の公道走行について

楠本千秋質問

タンデム自転車とは数人乗り自転車のことで、パイロットと呼ばれる前部座席の運転者が健常者であれば、後ろには視覚障害者が乗ることも出来るそうです。

2020年のパラリンピックの自転車競技でも使われる2人乗りの自転車で、東京大会を見据え、全国で公道走行解禁の動きが広がっているそうです。東京のタンデ

ム自転車交流協会事務局によると、佐賀・大分・宮崎・鹿児島・福岡など23府県では、走行可能だが熊本ではまだ解禁されていません。解禁には、県道路交通規則の見直しが必要です。



警察本部長

熊本県警察本部として、一般公道通行可に向けて、どのように対応されるのか警察本部長にお尋ねします。

警察本部長の答弁

安全性の確保を図りながら、道路管理者たる各自治体との道路交通環境整備を働きかけ、タンデム自転車の公道走行に向けた取り組みを推進します。



タンデム自転車

3 県民の健康対策について

楠本千秋質問

厚生労働省が発表した2015年の都道府県別の平均寿命ランキングを見てみると、男性の1位は滋賀県で81.78歳、2位は長野、3位は京都となっており、熊本県は7位で81.22歳となっています。

女性の1位は長野県で87.67歳、2位は岡山、3位は島根となっており、熊本県は6位で87.49歳となっています。

世界保健機関の世界保健統計2018年版によると、2016年の日本の健康寿命は74.8歳で、世界ランキングは2位となっています。ランキングの1位はシンガポールの76.2歳、3位はスペインとなっています。ちなみに、最下位は中央アフリカ共和国の44.9歳です。

昨年、天草市の健康づくり「健康ポイント事業」を紹介させて頂きました。

国では、国民健康保険の制度改革等にあわせて、各自治体の色々な取り組みにポイントを付けて、交付金を配分する「保険者努力支援制度」もあると、お聞きします。制度の説明と、各自治体の創意工夫された事業に県としても、支援が必要ではないかと思いますが、県のお考えを健康福祉部長にお尋ねします。